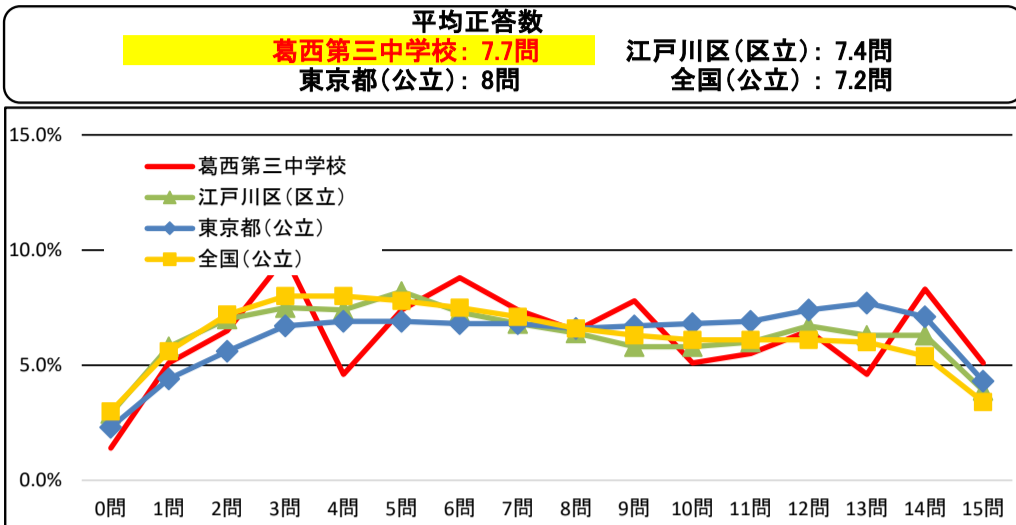


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】葛西第三中学校

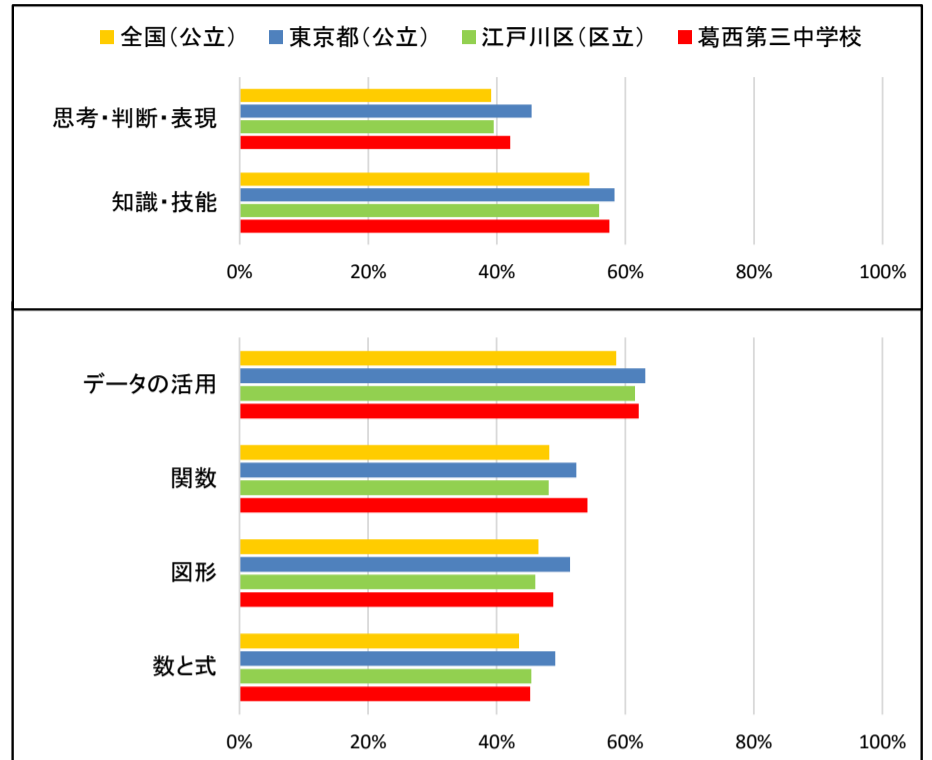
正答数分布



【平均正答率の差】

葛西第三中学校	51%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-2.0

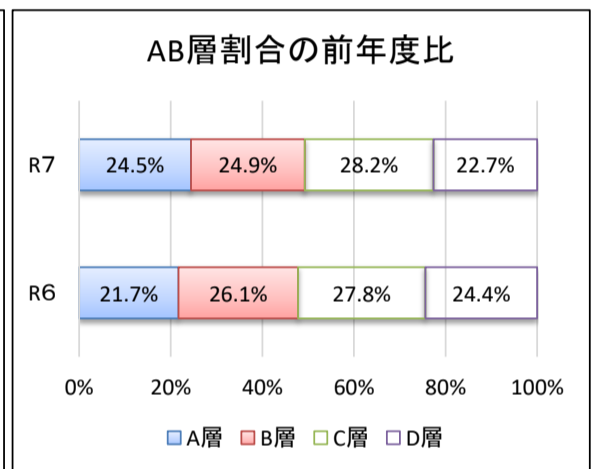
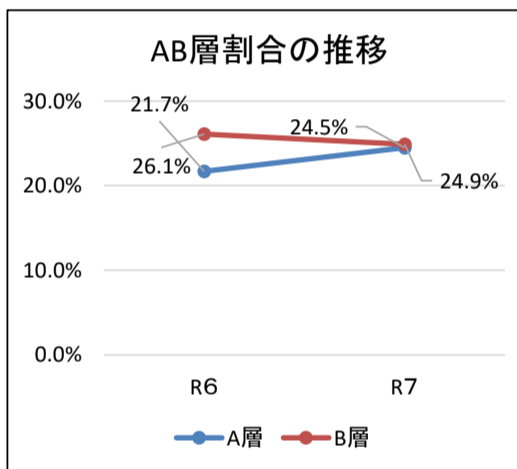
「領域別」の結果



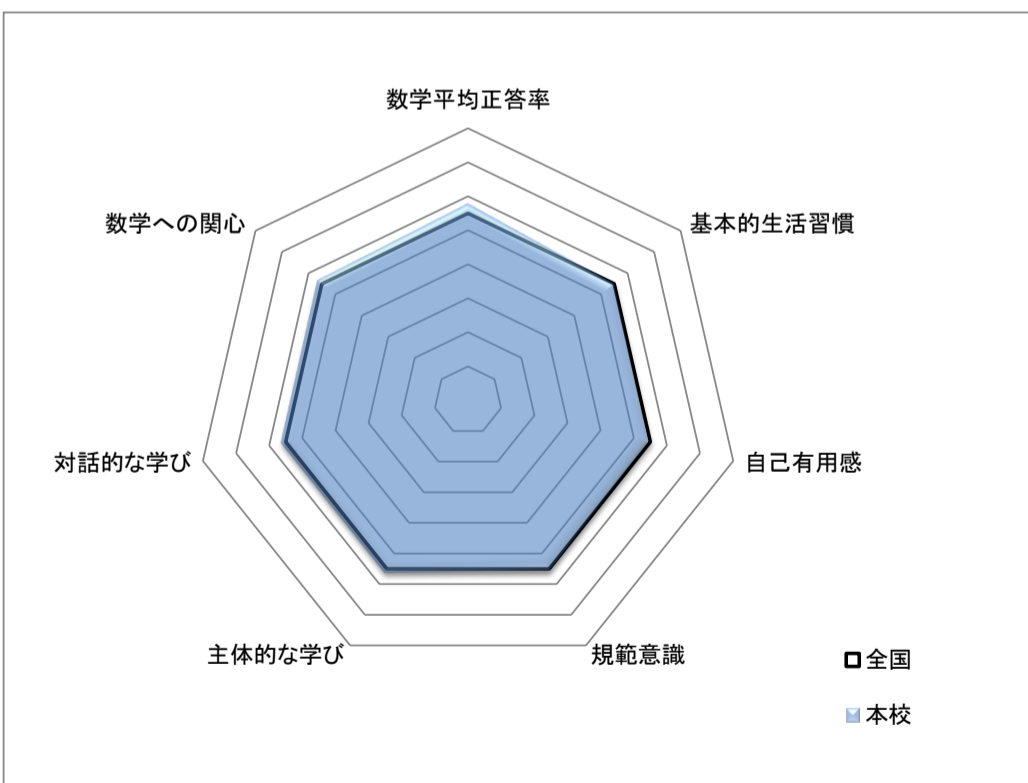
四分位における割合(都全体の四分位による)

数学	上位 ← → 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
葛西第三中学校	24.5%	24.9%	28.2%	22.7%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

すべての分野において、全国の数値に近い結果が出ている。割合としてのグラフには表れていないが、「主体的な学び」「数学への関心」については、肯定的意見が少なかった部分である。授業ごとに主体的な学習を多く取り入れ、既習事項から発展内容につなげられる授業展開が必要である。

《家庭・地域への働きかけ》

「基本的な生活習慣」「規範意識」については、学校だより、保護者会をとおして広く呼びかけているところである。本校地域は協力的な方が多く、しっかりと生徒を見守る環境が整っている。このチャートの円を大きくしていくことが学力の伸長につながることを引き続き呼びかけていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

前年度と比較して、A層の割合が2.7%増えているが、B層の割合が1.2%減っており、全体としてAB層が1.6%増えている。また、CD層を比較した場合、D層が減っていることを考慮すると、習熟度別少人数クラスの授業展開による成果と読み取ることができる。

平均正答数において、全国は上回っているが、東京都との比較では下回っている。今後は領域別で低い数値である「思考・判断・表現」「関数」「図形」を伸ばすことに重点を置き、継続的な授業を展開していくことが必要である。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

教師道場経験者の模範授業や、OJTによる具体的な授業力の向上を行っている。自己研修月間を設け、お互いに授業観察をし、授業後には考察を行うなど、指導力の向上に努めている。教科部会も放課後の時間帯に設定し、授業展開、考查問題、評価方法等の学び合いをしている。また、学校教育支援センターの指導員の授業観察後の研究協議を経て指導力の向上に取り組んでいる。

・基礎学力の保障

習熟度別少人数クラスにおいて、学期ごと、単元ごとにクラスを入れ替え、理解が不十分な部分について重点的に学習支援ができる体制を整えるなど、有効に活用する方法を考えている。また、単元別検定を実施し、自己の学力の分析をさせるとともに、努力した分が得点につながり、学力の定着が実感できる取組をしている。放課後学習教室「EDOスク」の活用、定期考査前の質問教室など、学べる機会を多くしている。

・学習習慣の確立

単元別検定により、出題範囲が限定された中で集中して学習に取り組める環境を作っている。授業以外に自ら学習に取り組む放課後学習教室EDOスクを活用している。家庭学習については、授業での課題の提示とともに、タブレットPCを使用して配信し、内容が確認できるようにしている。定期考査の時期では、試験範囲を早い時期に発表し、学習計画表を活用して計画的に実施、自己検証をしながら取り組めるようにしている。

・AB層の育成

習熟度別授業による基礎の確立はもちろんのこと、応用への取り組みを継続して実施し、定着の度合いを確認し、確かな学力へとつなげていく。また、自力解決を充実させ、グループ討議において自らの考えをより深めさせ、問題の解決とともに新たな課題を見つけ、考えていける力を養わせる。